

# パフォーマンスグレード ガイダンス

## はじめに

ABRSM のパフォーマンス グレード ([www.abrsm.org/performancegrades](http://www.abrsm.org/performancegrades)) は、受検者による演奏が動画に記録され、高度の訓練を受けた検定員によってリモートで評価されるものです。このガイダンスには、申込み、動画撮影、等受検する際の具体的な手続きが記載されています。

検定自体の内容、課題についての詳細は受検要項([www.abrsm.org/performancegrades](http://www.abrsm.org/performancegrades))及び検定規定集 ([www.abrsm.org/examregulations](http://www.abrsm.org/examregulations)) を必ず参照のこと。

## 用語の定義

このガイダンスにおける用語は、以下のように定義されています。

**Applicant** (アPLICANT/受検申込み者) : 18 歳以上で ABRSM 検定に申込みをした方  
ー主に学校関係者、音楽指導者、保護者、或いは受検者自身 (本人が 18 歳以上の場合)

**Candidate** (キャンディデイト/受検者) : 検定を受ける方。18 歳以上の場合は同時に受検申込み者となることもできます。

**Contact ID** (受検者問い合わせ ID) : 初めて受検する場合は、まだこの ID が与えられていません。二回目以降この ID が有効な本部との連絡手段となります。受検申込みには必須な番号となります。

**Responsible Adult**(責任ある大人) : 18 歳以下の受検者の検定を監督する 18 歳以上の方。  
アPLICANTや、指導者、或いは保護者など。

## 演奏曲目の選択(シラバスより転載)

曲目数：受検者は4曲を選び、中断することなく連続した演奏をします。該当するグレードの各リスト(A,B,C)から1曲ずつ選び、4曲目はリストからでも、又は自由な選択も可能です。又、演奏の順番は自由です。曲目の選択についての詳細は以下を参照のこと。

### 自由曲の留意点：

- ・選択曲は受検するグレードと同等、或いはそれ以上のレベルであること(事前申告は不要)。
- ・リストにある曲を選択することも可能。
- ・選択曲は現在出版(onlineも可)されていて、プログラムリストに記載される。
- ・デュエット曲は、その旨記載がある限り有効。
- ・自由曲の**最低**演奏時間は以下の通り。

グレード	1	2	3	4	5	6	7	8
演奏時間(分:秒)	00:25	00:30	00:35	00:45	01:00	01:30	02:00	03:00

**トータルの演奏時間：曲間のブレイクを含む最大演奏時間は以下の通り。**

グレード	1	2	3	4	5	6	7	8
演奏時間(分)	6	7	8	10	12	15	20	25

その他の演奏についての留意点ーデュエット曲、作曲者、レパートリーリスト、楽譜と出版社、ペダルの使用、手の大きさについて、「繰り返し」ー等については実技検定要項に準じるので精読のこと。

## リモートによる評価の必要条件

リモート評価のパフォーマンス グレードの受検者は、以下の点にご注意下さい。

1. ビデオによる録画は：
  - ・ 4 曲/歌曲の、連続した、未編集の演奏であること。
  - ・ 演奏前にプログラムリストが提示されること。
  - ・ 演奏前に自由曲の 1 ページ目をカメラにかざすこと。
  - ・ 演奏前に必要事項をカメラに向かって述べること。
  - ・ 演奏前に受検者 ID をカメラにかざすこと。(グレード 6,7,8 のみ)
2. 受検者、或いは責任ある大人(受検者が 18 歳未満の場合)は、演奏を送付する際、宣誓書を完成させること。

### 受検者 ID とは

グレード 6、7、8 の受検者は、写真付の身分証明書の提示が必要です。これらは、より高いグレードやディプロマ、大学入学志願の際にも使用可能です。この ID は検定の初めにカメラに向かって提示されます。詳細は、[www.abrsm.org/policies](http://www.abrsm.org/policies) をご覧下さい。

### 受検会場

受検者或いは受検申込み者は受検会場を選択できます。これらは、受検者の学校、指導者のスタジオ、その他検定に適した広さと設備、楽器を有する場合に限りです。受検者の自宅でも可能です。

# 受検申込み

## オンラインでの申し込み

PG はオンラインでの申し込みで受け付けます。初めて申し込む方は、登録をしてアカウントを作成しなければなりません。 ([www.abrsm.org/createaccount](http://www.abrsm.org/createaccount)) 受検申込み者は18歳以上であれば、責任ある大人や指導者である必要はありません。

申込みの前に準備するもの：

- ABRSM 問い合わせ ID (取得している場合)
- 受検者氏名
- 受検者生年月日
- 受検科目
- 受検者（或いは保護者）のメールアドレスー必須
- 特別に必要な配慮について

申込みの方法：

- 申込期間内に、オンライン申込み(<https://portal.abrsm.org/Global/Login>)へログイン
- ‘Public Venue Booking’をクリックして楽器、グレードを選択
- 受検日と受検者情報の詳細を加える
- 支払いをする

受検者(保護者)のメールアドレスー受検者が ABRSM アカウントを登録時に必要。PG 動画作成、提出を受検者自身で行う場合(アPLICANTではなく)、このアカウントが必要。

受検申込みが完了すると、本部から受検者問い合わせ ID を登録するようにメールで案内があります。

## 動画提出の期限

動画提出日（申込後 28 日以内）までに送付されなかった場合は提出不可となり、欠席扱いとなります。事由によっては、部分的な返金が可能な場合があります。詳細は [www.abrsm.org/en/policies/withdrawals-non-attendance-and-fee-refund-policy/](http://www.abrsm.org/en/policies/withdrawals-non-attendance-and-fee-refund-policy/) をご覧下さい。再度申し込む場合は、新しい申込み手続き(支払いも含む)をお願いいたします。

# リモート受検の実際

## 動画提出日

受検者は動画を期限（申込後 28 日以内）までに提出する必要がありますが、必ずしも提出日に録画されなければならないという事ではありません

## 責任ある大人の方々へ（当てはまる場合）

### **責任ある大人の役割**

18 歳未満の受検者の監督をします。録画前にガイダンスを精読し、受検者に決められた事項を順守させなければなりません。また演奏を送付する際、オンラインでの宣誓書を完成させることも求められます。

### **検定中は**

以下のことを求められます：

- 検定時間内は会場に留まること。
- 演奏が中断されることなく行なわれることを確認すること。

### **責任ある大人は：**

- 必要に応じて、譜めくりができます。
- 受検者の伴奏者を探します。
- ビデオ録画デバイスを使用して受検者を支援し、受検者が希望する場合は、プログラムフォームと自由曲をカメラに表示するのを手伝うことができます。

## ビデオ録画について

### **一般的な留意点**

検定は一回の連続する録画にて行われます、即ち、一度録画が始まると、受検者は必要事項をアナウンスし、必要書類をカメラに示し、選択した順序で 1 つの連続したパフォーマンスで曲/歌を演奏します。

演奏前チューニングは録画不要です。検定では演奏そのものが評価されます。演奏中のチューニングの際は、録画をとめずにそのまま行ってください。詳しくはシラバスを参照のこと。 [www.abrsm.org/performancegrades](http://www.abrsm.org/performancegrades)

録画の編集は一切認められません。

### **記録装置とセットアップ**

ほとんどのスマートフォン、タブレット、ラップトップは、試験の記録に適していますが、カメラの解像度を **720p** に設定する必要があります。低い解像度 (**480p** など) は不明瞭で粗い画像を生成する可能性があり、高い解像度ではファイルが大きすぎてアップロードできない可能性があります。通常、解像度を変えることは可能です。

### **カメラの向き**

横向きまたは縦向きで記録できます。カメラは安定していて、受検者と楽器、譜面台などが明確に見えるようにします。受検者に主な焦点が当たりますが、伴奏者も視野に入れておく必要があります。大切なのは、演奏と伴奏のバランスが良くとれていることです。

鍵盤での受検者の場合、鍵盤の全体像はもちろんですが、ペダルも視野に入る必要があります(ペダルを使用する場合)。パーカッション受検の場合は、カメラを動かさずに、演奏するすべての楽器が見えるようにしてください。

オルガンなどの場合、音のバランスをとるためにカメラとの一定の距離が必要となります。従って、マニュアルやペダルの映像が不明瞭になる場合が出てくる可能性があります。いずれにしても演奏者(受検者)は、はっきりと分かるように録画してください。

### **会場に入室可能な人員**

責任ある大人或いは演奏と直接関連のない方が会場に留まる場合、カメラから離れ、演奏を妨げないようにする必要があります。いかなる場合でも演奏に影響を与える行為はつしむこと。

### **録画のテスト**

検定前に録画のテストを行うことにより、音質、録画の明瞭さ、ゆがみ等をチェックできます。また、明るさの加減、申告書類の見やすさ、不要なアイテムが無効になっているか、機材の電池残量のチェック等も忘れずに行ってください。

録画には、音色の質、強弱の幅など演奏の全てが網羅されていなければなりません。評価は録画されたものだけに基づいて行われ、録画時のバランスの悪さなどは考慮されません。又、録画の質に関するアピールは受け付けられません。

### ファイルのサイズ

録音は、MP4、WMV、MOV、MPG のいずれかの形式である必要があります。ファイルサイズは2GB以下にする必要があります。

ビデオの解像度が高すぎる場合、ファイルが大きすぎるか、アップロードに時間がかかる可能性があります。このような状況では、アンドロイドやアップルのアプリの助けをかりて、ファイルを圧縮してアップロードしてください。

### 演奏の前に

#### プログラム フォーム

演奏の前に受検者は、曲目のリスト(演奏順に記入)をカメラの前に、約5秒間提示しなくてはなりません。リストは演奏順に記入され以下の条件を満たす必要があります。

- 曲／歌に関する全ての情報：タイトル(出典のタイトル)、楽章名など (Opus, BWV などの情報)
- 作曲者名
- シラバスから選択したリスト番号(自由曲が当てはまる場合も)
- 自由曲がシラバス外の場合：○編曲者／編纂者名 ○タイトル及び出版社
- 選択曲のシラバスの有効年度
- 演奏する関連楽器 (当てはまる場合)

この冊子の最後に、フォームが添付されています。印刷して使用してください(録画面面に合わせて縦、横いずれでも使用可) このフォームの使用は任意です。

責任ある大人が、フォームをカメラに提示することも可能です。

#### 自由曲の楽譜

以下の点を明瞭にするため、**演奏前に**自由曲の楽譜をカメラに提示する必要があります。

- 曲目
- 音部記号、調性、拍子、テンポ指示など演奏にかんする指示事項
- 初めの数小節—全ページが見える必要はありません。

責任ある大人が、楽譜をカメラに提示することも可能です。

### アナウンス

演奏前に曲目リストをカメラに提示すると共に、受検者は以下の項目をその場でアナウンスします。

- 氏名
- 演奏科目(楽器名)
- グレード
- 曲目、作曲者名、リスト名を演奏順に。

責任ある大人が、アナウンスすることも可能です。

### 受検者 ID について

グレード 6、7、8 の受検者は、パフォーマンスを開始する前に、自身で 写真付き ID をカメラに提示する必要があります。これらは、より高いグレード、ディプロマ受検又は大学受験の際も使用できます。詳しくは、[www.abrsm.org/policies](http://www.abrsm.org/policies) を参照のこと。

## 録画の提出と宣誓書

受検者／申請者は、予め申請された録画提出期間内の締切日／時間までに、オンラインにてアップロードできます。この時間のみ、アップロードの機能が有効となります。

アップロードの準備ができたなら、受検者あるいは申請者のアカウントにてログインし、‘Submit Recordings’を選びます。正しい受検者名を選択し、アップロードを開始します。

アップロードの過程でこの録画が規則に則って行われたことを証明する文書を完成しなければなりません。(付録-1 を参照のこと) 受検者が 18 歳未満の場合は、録画に立ち会った責任ある大人が変わりにこれを執り行います。従って、責任ある大人は、ビデオのアップロードの際、同席しなければなりません。

動画のアップロードは、一回限り可能ですので、正しい動画を選択してください。



提出された動画は結果が出てから 90 日間保管され、その後は破棄されます。

### **録画の再利用について**

提出された録画は、ABRSM 検定の目的のみに使用され、他のいかなる場合にも転用不可となっております。従って、他人への録画の送付、Facebook や You Tube へのアップロードは禁止されており、これに違反した場合はその受検者は失格となる場合があります。

### **付記**

付記—1 :

# パフォーマンス グレード チェックリスト

さて、PG/ARSM の録画準備ができましたね！  
それでは、以下のチェックリストをご活用ください。

- 動画提出締切日と時間を確認

## ビデオの設定

- 720p であること
- 設定ファイルは : MP4, WMV, MOV, MPG に限る
- カメラには演奏者と楽器が写っている（できれば伴奏者も）
- ビデオと音声は同時に収録
- 演奏開始前にサウンドチェックを
- 録音機材バッテリーの残留時間を確認

## 演奏前の留意点 （カメラに必要資料を提示するのは5秒間）

- 受検者 ID(G6-8 及び ARSM のみ) を示す。
- プログラムフォーム(曲目表)を示す。
- 氏名/楽器/グレードを告げる
- 曲目/作曲者名/リスト番号 (A-3 など) を告げる
- 自由選択曲の 1 ページ目を示す。

## PG/ARSM の演奏を録画する

- 全 4 曲を継続して録画する
- 録画したものの編集は不可

## 録画の提出

- ビデオファイルのサイズは最大 2GB—それ以上のものは、圧縮して提出
- オンラインのアカウント経由でアップロード—確認画面が出るまで待つこと
- 提出する前に録画の音、画面を確認
- ファイル名に空白スペースを入れないこと。

## PG採点規準

### 演奏曲の評価

	音符/音程	拍子/テンポ/リズム	音色	音楽的な形付け	演奏
<b>Distinction 優 27-30点</b>	・極めて正確な音符/ 音程	・流暢 ・ルバートの適切な使用 ・リズムの特徴を把握	・明快さ ・音色の使い分け	・細部にわたる音楽的かつ 様式に合った豊かな表現	・自信に満ちた演奏 ・時代様式を生き生きと 伝えている
<b>Merit 良 24-26点</b>	・ほぼ正確な音符/ 音程	・持続性のある適切な ・よいリズム感	・音色のコントロール ・音色への配慮	・細部に留意し、明快な音 ・積極的な演奏	・音楽の理解がみられる ・曲の特徴、様式の伝達
<b>Pass 合格 20-23点</b>	・大体正確な音符 ・調性を保つに十分な 音程	・ほど良いテンポ ・ほぼ安定した拍感 ・リズムの正確さ	・安定感 ・音色の意識	・音楽的な形付け/細部へ が見られる	・適度な安定性/ミスから の速やかな回復 ・音楽的表現への配慮
<b>Below Pass 不合格 17-19点</b>	・煩雑なミス ・調性に影響する音程 の不安定さ	・不適切なテンポ ・不安定なテンポ/拍感 ・不正確なリズム	・不揃い/不安定な音 ・不適切な音色	・音楽的な形付け/細部へ が不十分	・ミスからの回復が困難 ・音楽的配慮が不十分
<b>13-16点</b>	・殆ど不正確な音符/ 音程	・テンポが維持されない ・拍子感の欠如	・音色コントロールの 配慮が不足	・音楽的な形付け/細部へ が殆どみられない	・演奏の中断 ・音楽的配慮の欠如
<b>10-12点</b>	・極めて不正確な音符/ 音程	・テンポ/拍子感の欠如	・音色コントロールの 欠如	・音楽的な形付け/細部へ の欠如	・ミスが多く、フレーズを 弾くのがやっとの状態

## 演奏全体の評価

	コミュニケーション	音楽の解釈力	演奏テクニックなど
<b>Distinction 優 19-21点</b>	●常に明確な演奏への配慮があり、自信/確信が感じられる ●プログラムの順番とペース配分の工夫がみられ、常に演奏への意識とコントロールがなされている	●常に様式に適った解釈で、曲の特徴を把握している ●テクスチャーやアンサンブルを常に良く把握し、バランス、ブレンドに留意しながらコントロールがなされている。	●必要な技術を常に把握しコントロールしている ●楽器の奏法をマスターし、状況に応じての演奏対応が十分である
<b>Merit 良 17-18点</b>	●概ね明確な演奏への配慮があり、自信/確信が感じられる ●概ねプログラムの順番とペース配分の工夫がみられ、常に演奏への意識とコントロールがなされている	●様式に適った解釈で、曲の特徴を大体把握している ●概ねテクスチャーやアンサンブルを良く把握し、バランス、ブレンドに留意しながらコントロールがなされている。	●必要な技術をほぼ把握しコントロールしている ●楽器の奏法をほぼマスターし、状況に応じての演奏対応が大体できる
<b>Pass 合格 14-16点</b>	●演奏のへの配慮があり、音楽全体の流れが感じられる ●プログラムの順番とペース配分の工夫がみられ、演奏への意識とコントロールが適当である	●様式に適った解釈で、曲の特徴を適切に把握している ●テクスチャーやアンサンブルをほぼ把握し、バランス、ブレンドに留意しながらコントロールがなされている。	●必要な技術を概ね把握しコントロールしている ●楽器の奏法をマスターし、状況に応じての演奏対応が大体できる
<b>Below Pass 不合格 10-13点</b>	●演奏のへの配慮が不十分で、音楽全体の流れが損なわれる ●プログラムの順番と/或いはペース配分の工夫がみられず、演奏への意識とコントロールが不足している	●様式に適った解釈が行われず、曲の特徴を損ねている ●テクスチャーやアンサンブルの把握がなく、バランス、ブレンドへの留意も見られない。	●必要な技術が不足し、コントロールが不安定である。 ●楽器の奏法が十分にマスターできておらず、状況に応じての演奏対応ができない
<b>7-9点</b>	●演奏のへの配慮が殆どなされていない	●様式に適った解釈が行われず、テクスチャーやアンサンブルの把握が殆ど出来ていない。	●必要な技術、コントロールが非常に不足し不安定である。

# Programme form – Performance Grades

Please show this completed form and your own-choice piece/song to the camera, and announce yourself (name, subject, grade) and your pieces/songs (titles, composers, list information) in the order you will be performing them, before beginning your performance.



Candidate name \_\_\_\_\_ Subject (instrument) \_\_\_\_\_ Grade \_\_\_\_\_

Piece/Song	Title	Composer	List*	Number*
1				
2				
3				
4				

Year of syllabus repertoire lists \_\_\_\_\_ Break (if taking) between pieces \_\_\_ and \_\_\_

Related instrument(s) (if used) \_\_\_\_\_

*\* Write 'OC' for your own-choice piece/song (unless from the repertoire lists); leave 'List' blank if a Snare Drum, Timpani or Tuned Percussion candidate*

Additional information for own-choice piece/song (unless chosen from the repertoire lists)

Piece/ Song no.	Arranger (if applicable)	Book title	Publisher
--------------------	-----------------------------	------------	-----------